



栃木県開拓農業協同組合

たかだ えいめい
高田 英明さん

営農指導から農産物の集荷・販売まで、農家の仕事を幅広くサポートする農協職員。農家に寄り添い、現場の最前線を見てきた高田さんに、このまちの農業の今と、これからを聞きました。

みんなで備えよう！ 気候変動

厳しい暑さや突然の大雨など、「最近の気候はなんだか変……」と感じる場面はありませんか。今回の特集では、「気候の変化に適応しながら暮らす」ために市内で活動する、さまざまな分野の人々を紹介します。

▶問い合わせ 気候変動対策局 ☎0287(73)5651

気候変動は
未来に関わる問題

異常気象や自然災害が相次ぐ中、世界中で気候変動への関心が高まりつつあります。本市では昨年度、市町村としては全国で初めて環境省からの受託事業として、気候変動情報収集・分析事業を行いました。

昨年11月に行った市民向けワークショップでは、20人の参加者全員が「日常生活の中で気候変動を感じることもある」と回答。その中には「野菜の値段が上がっていると感じる」「コメの品質が変わっているのでは」「これまで安全だと思っていた場所で、洪水が起ることが心配」といった意見もありました。

また、市では、気候変動による農業・防災・観光業・教育への影響について、地元関係者の皆さんに聞き取り調査を実施。どれも今後のまちづくりに関わらない分野ですが、気候変動が原因で、さまざまな困難に直面していることが分かりました。

気候変動による影響は、私たちの暮らしの中にも表れます。決して「遠い未来の話」と思わず、私たち自身や次の世代に関わる問題として、一人一人ができることから取り組むことが大切です。

猛暑が続けば
食卓への影響も

このまちの農作物の中で気候変動の影響が大きいのは、夏穫りの高原ホウレンソウです。主な産地は標高の高い塩原地区ですが、近年は気温が35度を超える日もあり、平地と変わらないほどの暑さに。こうした高温・多湿の環境では病気や変色が発生しやすくなったり、ゲリラ豪雨で土や種が流れ出したりと、すでに影響が出ています。このまま気候変動が進めば、夏穫りのホウレンソウは高価になり、やがては店頭から姿を消すかもしれません。

農作物を守る対策の一つ、土壌消毒は、近年の暑さに比例するように重要性が高まっています。これは同じ作物を繰り返し栽培するとき、畑に薬剤を注入することで、土の中に特定の病害虫が増えるのを抑える作業です。農家にとって土は命。今後は土の温度上昇を抑える工夫や、土を酷使しない栽培計画がますます必要になってくると思います。

農作物は、地元生産者の皆さんが試行錯誤しながら育てたもの。スーパーや直売所で「栃木県産」の商品を見かけたら、ぜひ手に取ってもらえるところらしいです。

農業分野の
これからに注目

ホウレンソウは本市の野菜産出額の約2割を占める特産物です。全国的に見てもトップクラスの生産量を誇り、本市は国の指定産地にも選ばれています。気候変動の影響で収穫量が減ったり品質が落ちたりすることは、このまちの農業にとって大きな問題です。

そのため、気候変動によって想定されるリスクを詳しく把握し、早めに対策を始めることが必要です。市では今年度、農業分野の調査テーマを高原野菜に絞り、高温による品質低下や病害虫の増加などについて、さらなる情報収集・分析を進めていきます。



分野	気候変動の影響で想定されるリスク	対応策の例
農業	・夏の高温によって品質が低下したり、病害虫が増加したりする	・ハウス栽培では換気や散水をしたり、細霧冷房を使ったりする ・薬剤への抵抗性が付くのを防ぐため、同じ農薬を続けて使わないようにしたり、新しい農薬を導入したりする
	・雨が増加し、収穫量や品質が低下する	・種まき、植え替え、収穫の時期を見直す
防災	・豪雨で、河川堤防などによる防災が難しくなる	・インフラを維持管理する担い手や費用が足りなくなると想定されるため、自然を活用して防災機能を高める方法を検討する
観光	・屋外型レジャーの中止・内容の変更が必要になる	・活動時間帯や場所を変える
	・観光客の訪問先決定に影響を及ぼす	・花木の見頃の時期などの情報を効果的に発信する
教育	・学校での活動中に熱中症になる児童生徒が増加する	・市内の全小・中・義務教育学校でエアコンや扇風機を有効に使う ・屋外での活動や学校行事などを行うとき、時間の制限や水分補給を行う